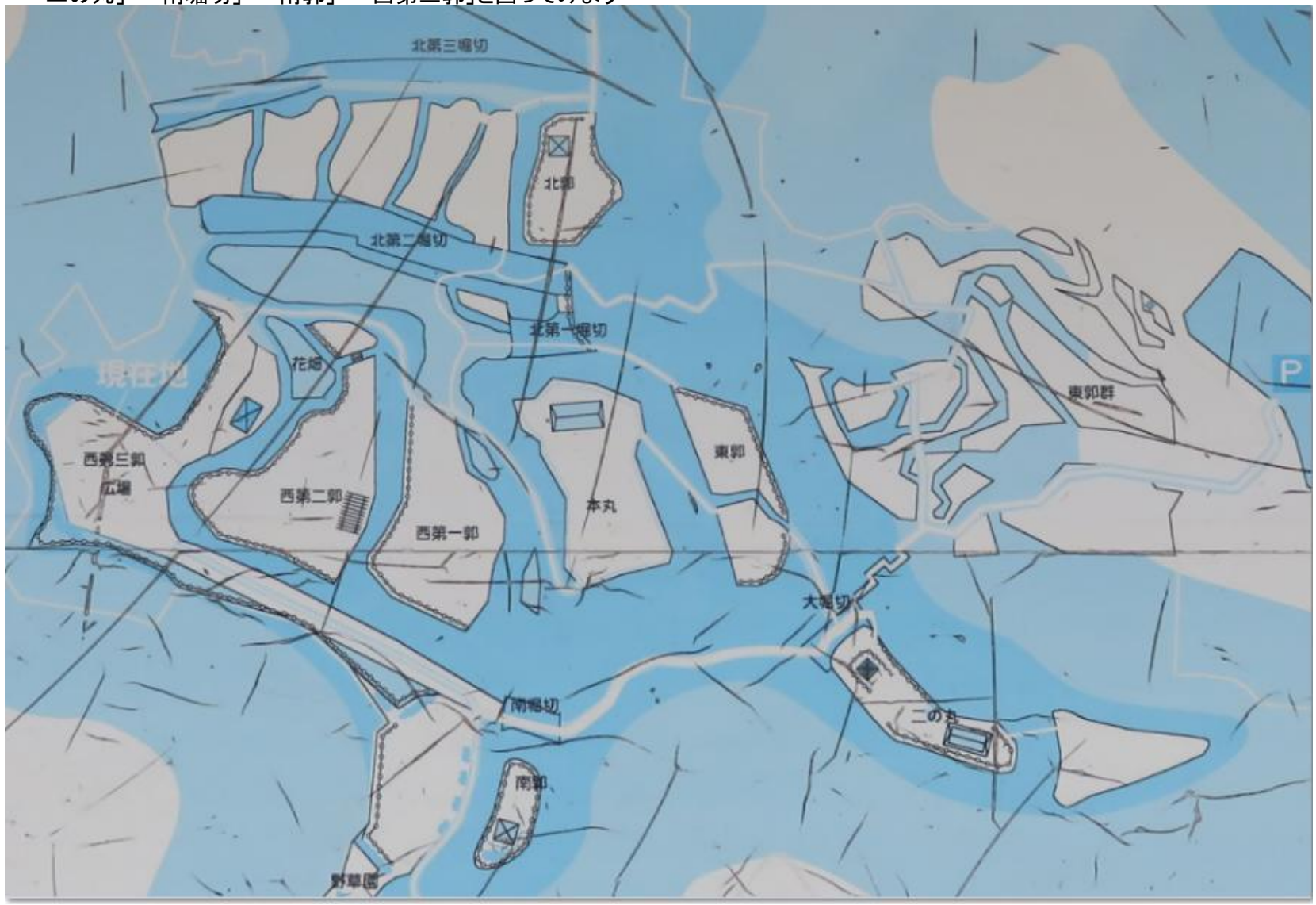
後閑城跡（安中市）

築城年代：嘉吉元年（1441年）、築城者：依田忠政

前方の丘陵が後閑城跡

近づいて見たところ/比高50m程である/南側から見たところ

縄張図/「西第三郭」→「西第二郭」→「西第一郭」→「北第一堀切」→「北第二堀切」→「北第三堀切」→「北郭」→「本丸」→「東郭」→「大堀切」→「二の丸」→「南堀切」→「南郭」→「西第三郭」と回ってみよう



城址には西側と東側からアクセスする道路があり、それぞれ駐車場が設けられている/こちらは西側からの道路

後門城址入口

左手は土塁/前方に駐車場近くの東屋が見える

これはその土塁の更に左手を見たところで、前方は北郭の段状の腰郭

正面の最上部が本丸/右手は東屋

ここが駐車場となっている西第三郭

その西第三郭から東方向に本丸（最上部の東屋が建っているエリア）を見たところ/その手前に西第一郭、西第二郭が郭状になっている

右手方向に進むと南郭がある

さて、左手から本丸へと登って行こう/前方に北郭の段状の腰郭が見える

この坂道を本丸へと登って行く/右手には西第二郭、西第一郭が段状に構え、左手には土塁が延びている

ここが西第二郭/半円形に突き出した横矢折れ城塁が見える

その半円形に突き出した横矢折れ城塁をアップで見たところ/右下は西第三郭

ここは西第二郭南側から本丸方向（最上部の東屋が建っているエリア）を見たところ/すぐ上は西第一郭

同じく下の西第三郭を見たところ

もう少し本丸へと登ろう/正面のマウンドは本丸城塁から続く土塁

ここが西第一郭

これは西第一郭の南側から北方向を見たところ/右上が本丸

これがそこから本丸の城塁を見たところ

これは左下の西第二郭及び更にその下の西第三郭を見たところ

これは南方向にある南郭（東屋が建っている）を見たところ

本丸への坂道に戻り、北方向を見ると本丸城塁から続く土塁（手前）の向こうにも土塁が見える

正面がその土塁

左手から見るとこんな風に二重土塁となっている/右手は本丸との間の北第一堀切、左手は北郭との間の北第二堀切

その北第二堀切と北郭（東屋が建っている）を見たところ

こちらは北第一堀切/右手が本丸の城塁、左手が土塁

北第一堀切

この堀切の先はこんな感じで東郭へと繋がっている/右手は本丸の城塁、左手は急峻な斜面

そこで振り返って北第一堀切を見たところ/左手が本丸、右手が土塁

これはその土塁に登って東方向を見たところ/左手が北郭、右手は本丸

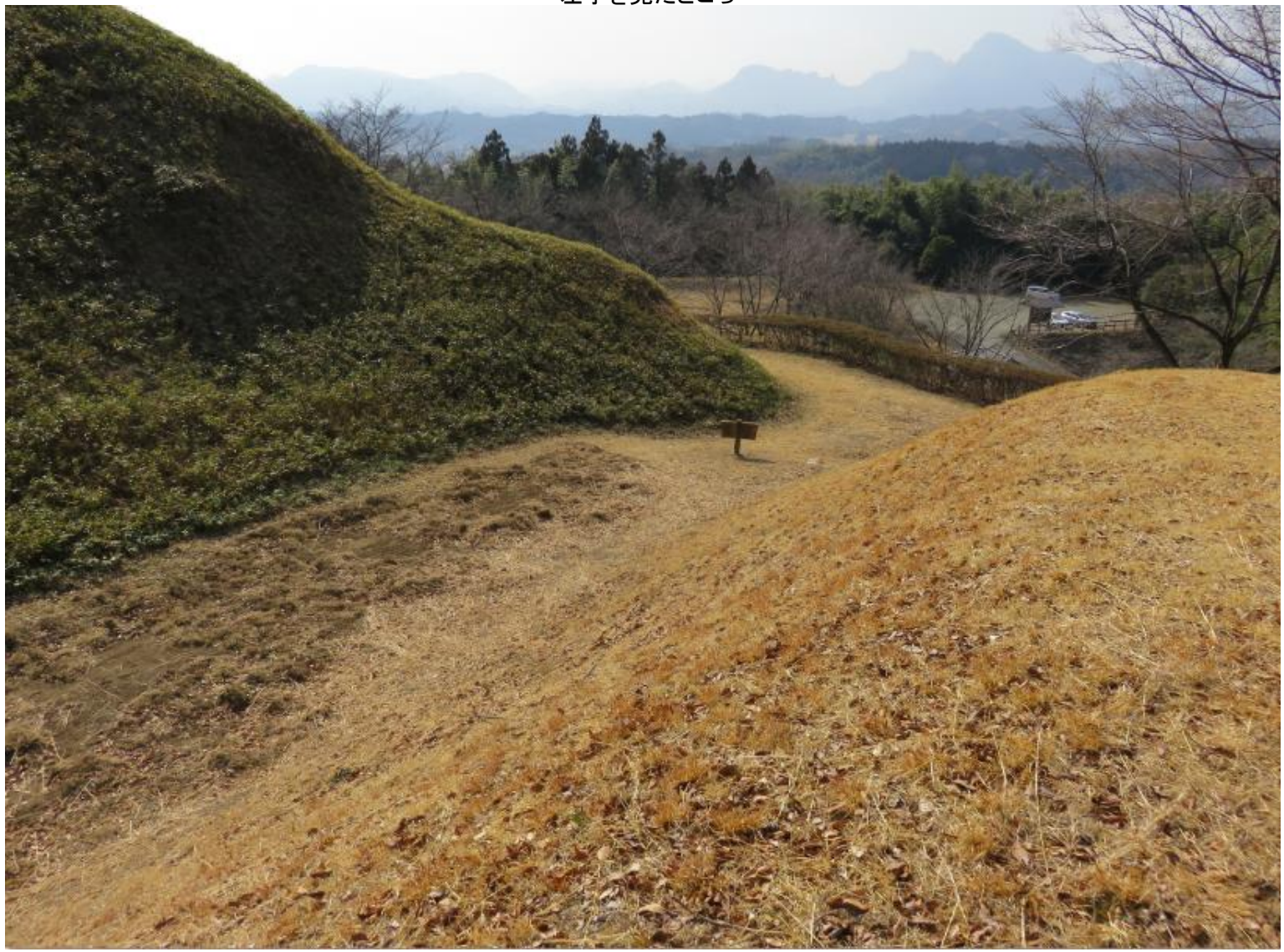
右手の本丸を見上げたところ

左手の北郭を見たところ

土塁の先はこのように急峻な斜面になって下っている

そこから振り返って西方向を見たところ/左手は本丸の城塁から続く土塁

左手を見たところ



右手を見たところ/北第二堀切はこのように竪堀状になって西方向に下っている/その右手は北郭の段状の腰郭

これは北第二堀切を西側から東方向に見たところ/右手が土塁、左手は北郭

第二堀切

反対に東側から西方向に見たところ

その先はこのように竪堀状になって西方向に下っている/左手が土塁、右手は北郭の段状の腰郭

さて、これは北郭の更に北側にある北第三堀切/西側から東方向に見たところ/右手が北郭

このように尾根続きの本丸北側は三重の堀切を入れて厳重に守られている

反対に東側から西方向に見たところ/左手が北郭

ここが北郭/前方は本丸

北郭の南側で本丸（東屋が建っている）を見たところ/手前はその間にある土塁

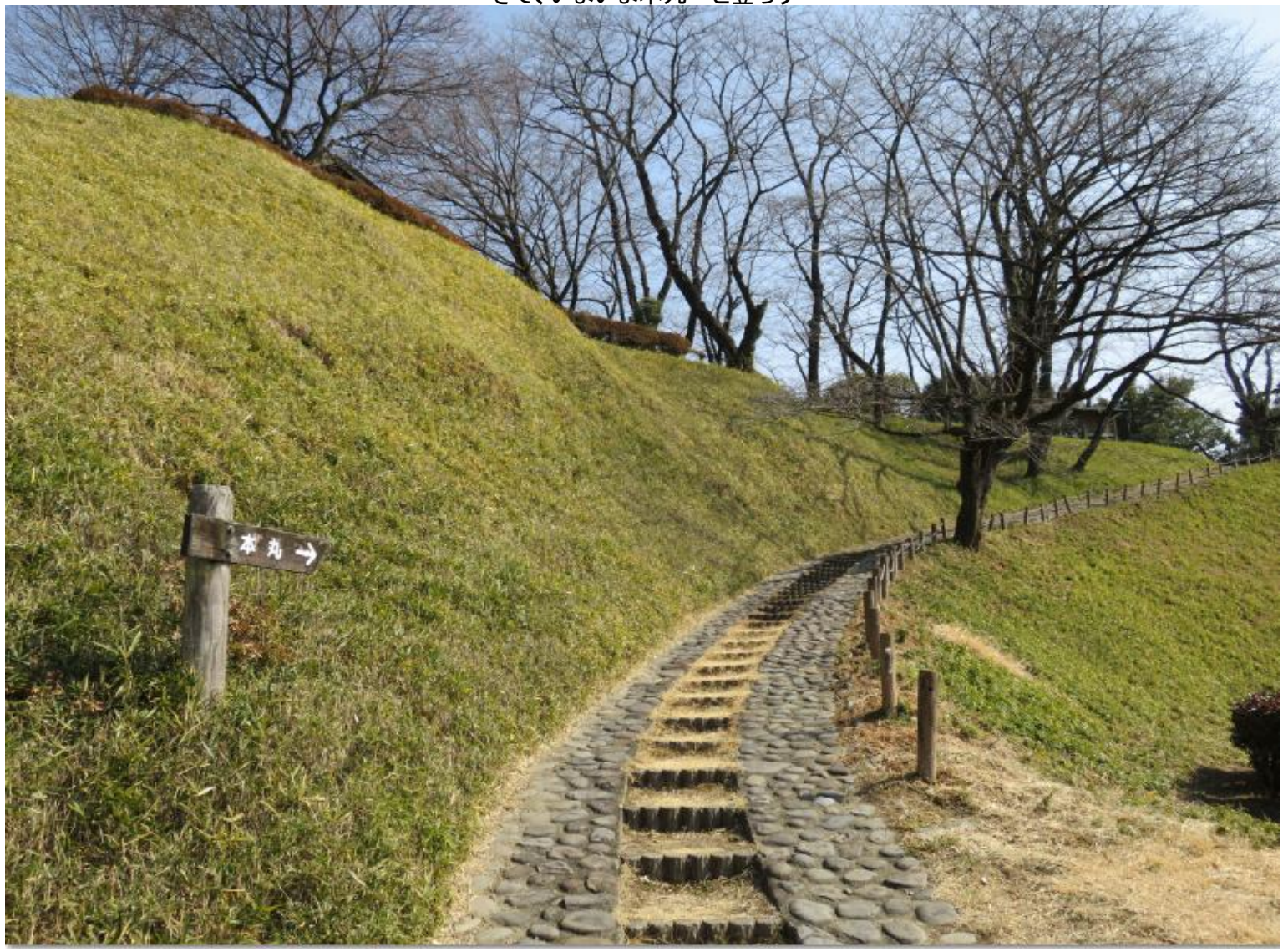
北郭から西方向の段状の腰郭の見下ろしたところ

これはその段状の腰郭の下から北郭（東屋が建っている）方向を見上げたところ

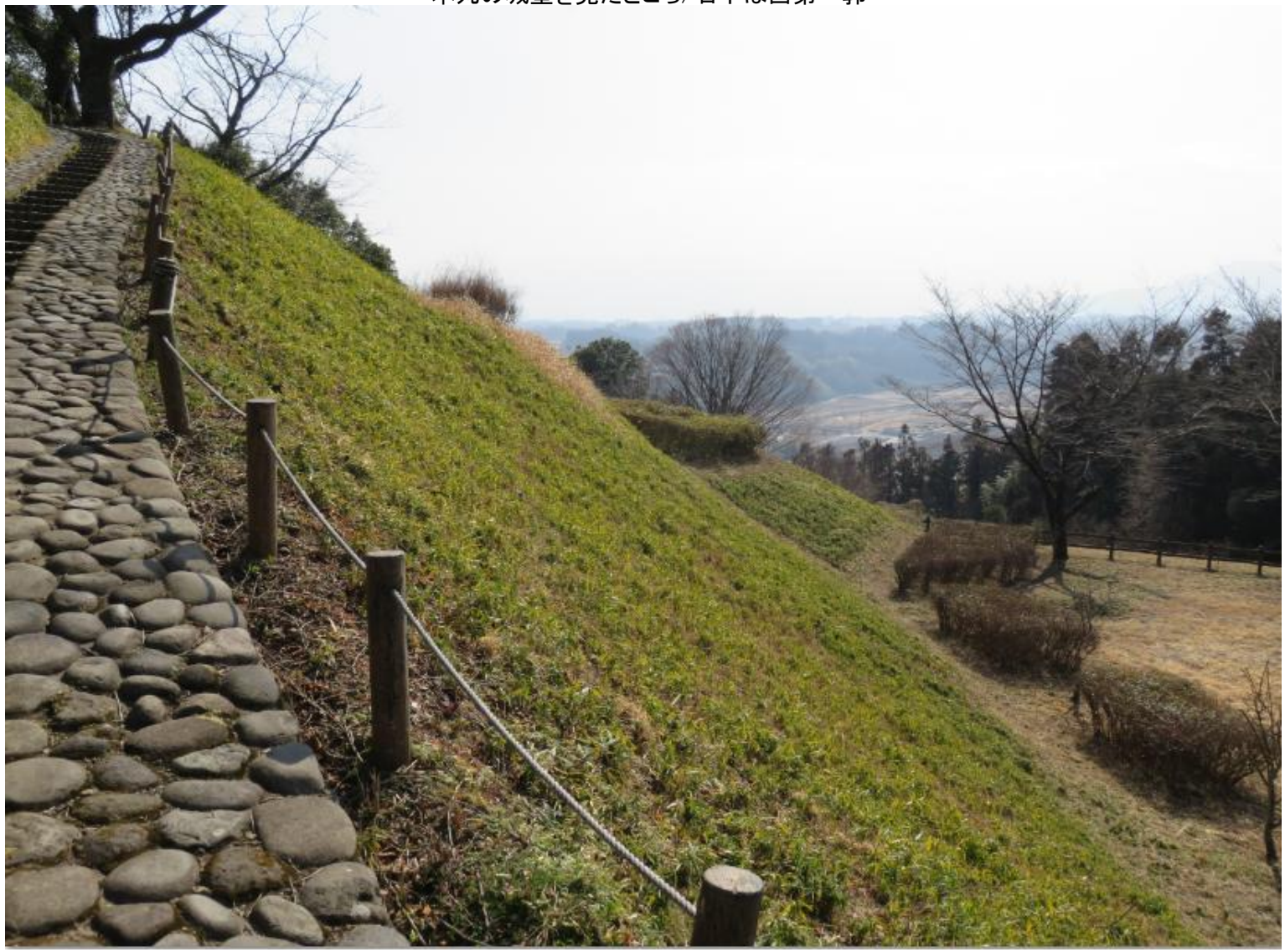
その段状の腰郭の一つを見たところ/結構な平場となっている

竪堀状になって下って来る北第二堀切を見上げたところ/右手は土塁で、左手が北郭の段状の腰郭

さて、いよいよ本丸へと登ろう



本丸の城塁を見たところ/右下は西第一郭



ここが本丸/右手に看板が立っている

安中市指定史跡
後閑城址

本丸の周囲には百庚申が巡っている

百庚申

庚申信仰の石造物の一つの形。

庚申信仰とは、干支（えと）の庚申（かのえさる）にあたる日に行われる信仰の行事で、中国で始まり、わが国には奈良時代の末頃から宮廷中心にひろがった。室町時代には仏教的になり、江戸時代には全国的に盛んになって、この地方にも各地に庚申講がつくられた。神道では猿田彦大神、仏教では青面金剛を本尊とすることが多く、特に青面金剛は、三つの顔と六本の手に道具を持つため「庚申様は働き者で、百姓の神」として信仰された。各地にある庚申塔は供養のしるしで、百庚申は、庚申塔を百基造って信仰のしるしとする。市内には秋間地区や鷺宮地区などにあり、板鼻には一つの石に庚申の文字を百個刻んだ一石百庚申がある。

後閑城の百庚申は、寛政九年より同十二年まで三年余をかけて造られたもので、旧後閑城の家臣と称する上原、安藤、中島氏等が発起人となり、安中藩家臣や近隣の人々に働きかけて有志を募り、旧後閑城本丸跡に建てた。庚申塔の総数百二十八基。

以後、毎年四月、桜の花の下、歴代の城主および戦死者の供養をかねて村人がお祭りを続けている。

安中市

南側から北方向を見たところ

こんなものも

本丸の北側はこのように一段下がっていて、東屋が建っている

西側から東方向を見たところ

東側から西方向に見たところ

焼き物の立体模型もあった

これは本丸で西方向を見たところ/西第一郭～第三郭を見下ろす

これは本丸の城塁を見たところ/左下は西第一郭

これは本丸の東側で、東郭を見下ろしたところ

左手を見たところ

右手を見たところ

さて、本丸から東郭へとこの坂虎口を下りて行こう

左手の坂道を下りて来て振り返り、東郭を南側から北方向に見たところ

左上の本丸を見上げたところ

振り返って南方向を見下ろしたところ/急峻な斜面となっている

これは東郭を北側から南方向に見たところ

振り返って北方向を見下ろしたところ/急峻な斜面となっている

そこで左手を見ると、この先に北第一堀切がある/左手は本丸の城塁

さて、東郭の南東側から二の丸へと下って行こう

右手は東郭の城塁

前方は二の丸の城塁で、その手前が大堀切

二の丸には櫓台が建っている/城塁の下が東郭との間の大堀切

その大堀切を左手から右手に見たところ/左手は二の丸の城塁、右手は東郭の城塁

大堀切

反対側から見たところ/左手は東郭の城塁、右手は二の丸の城塁

さて、こちらから二の丸へと登ってみよう

ここが二の丸/説明坂が立っている

二の丸

後閑城の二の丸は、本丸から約20ｍの比高差があり、北から南東方向に「く」の字形に曲がりながら延びています。本丸と二の丸の間には、大堀切があり、それによって本丸とは完全に断たれた、一城別郭と言われる構造になっています。これにより、戦いによって二の丸が落とされたとしても、本城には累を及ぼさないようになっているのです。この様な構造は、山城に多く見る事ができます。

二の丸の大堀切に面した部分には、他の部分より一段高く櫓台が築かれています。発掘調査の結果、柱跡が確認されたため、物見櫓の推定複元を行いました。

安中市

ここにも東屋が建っている

これは二の丸の南側から南方向を見下ろしたところで、段状の郭が続いている

ここが櫓台/物見台の役目を担っていたと云う

櫓　台

こんなものが

南方向を見下ろしたところ/先程の東屋が見える

現状では木々が生い茂っていて遠方は良く見えない

そこで大堀切を見下ろしたところ

左手を見ると大堀切から西方向に行く道がある/この道は当時は無く、急峻な斜面であったようだ/右手は本丸の城塁

右手を見ると大堀切の右手から東方向に下って行く道があるようだ

これがその道で東郭群へと繋がるようだ

階段を下りて行く

すると正面に東郭群が展開しているようだ/右下に更に下って行くと東駐車場がある

こちらが右下の駐車場方面

さて、東郭群を見てみよう

階段を登ったエリアに展開する東郭群で、西方向の上部にある東郭の城塁を見たところ

振り返って東方向に展開する東郭群を見下ろしたところ

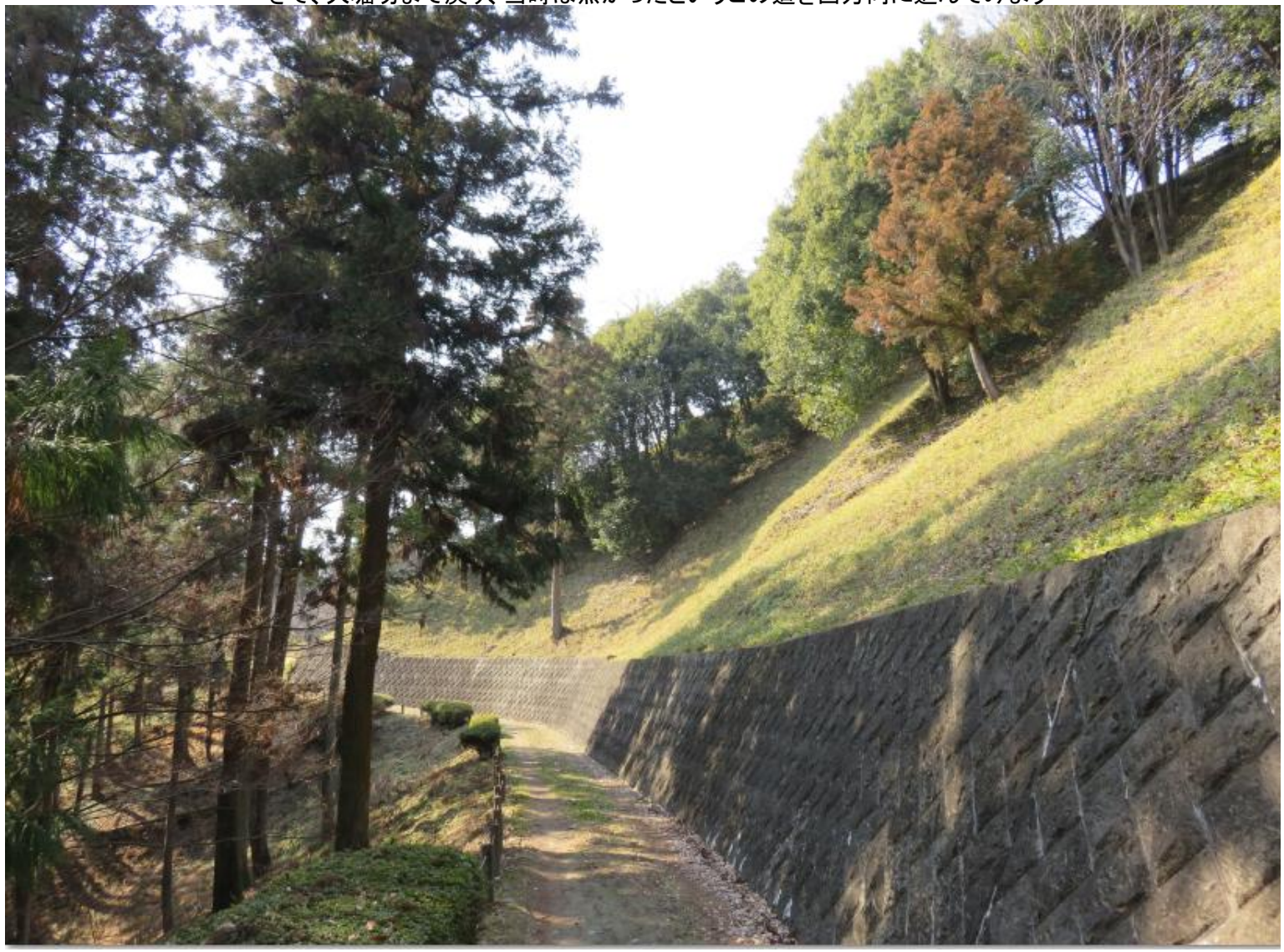
この先も段状に郭が続く

東郭群

こんな塩梅

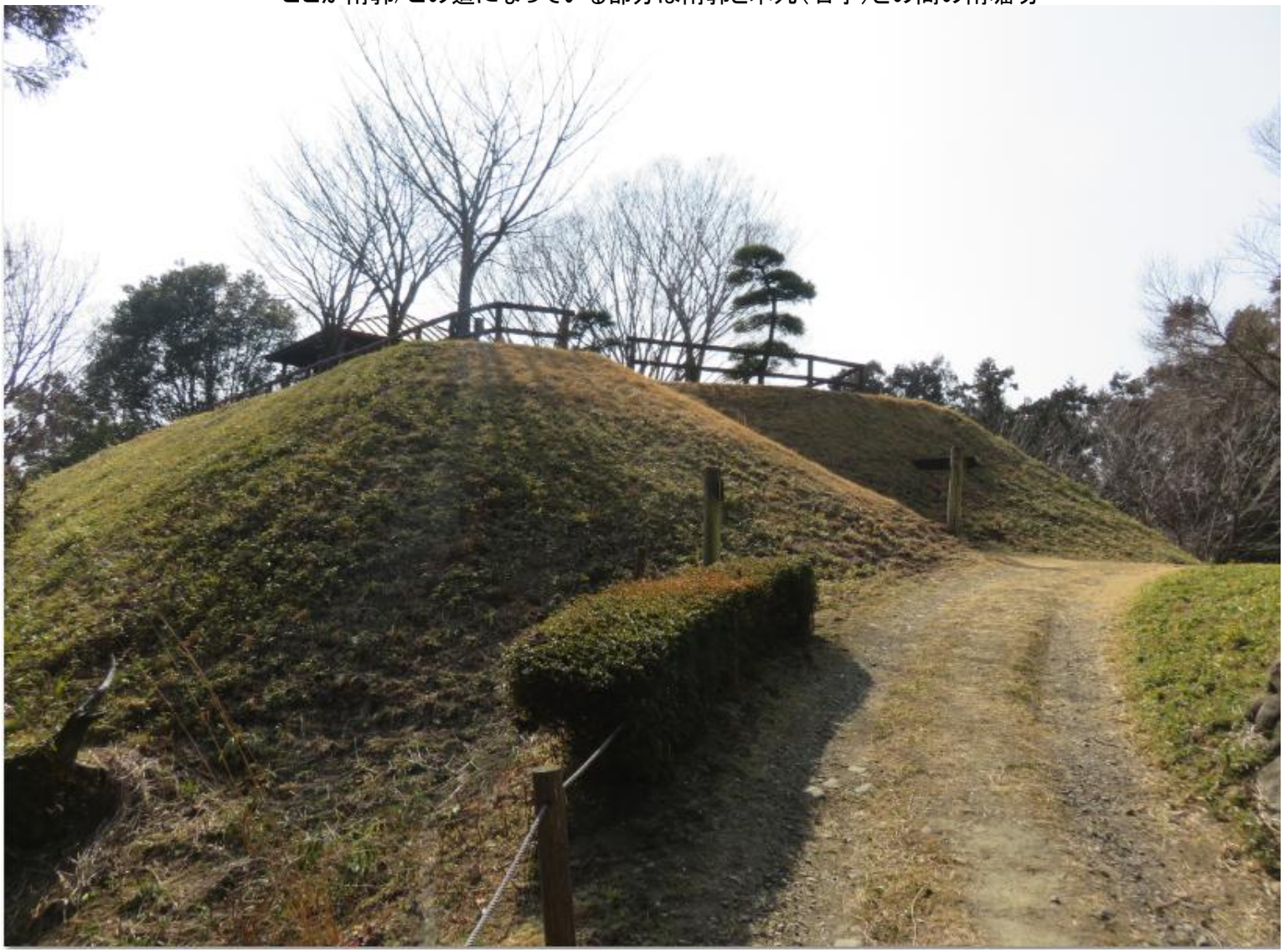
更に東方向に下がりながら段状に郭が続いている

さて、大堀切まで戻り、当時は無かったというこの道を西方向に進んでみよう



前方に南郭が見えてくる/右手は本丸の城塁

ここが南郭/この道になっている部分は南郭と本丸（右手）との間の南堀切



その南堀切を反対側から（西側から南方向に）見たところ/左手が本丸の城塁、右手は南郭の城塁

南堀切

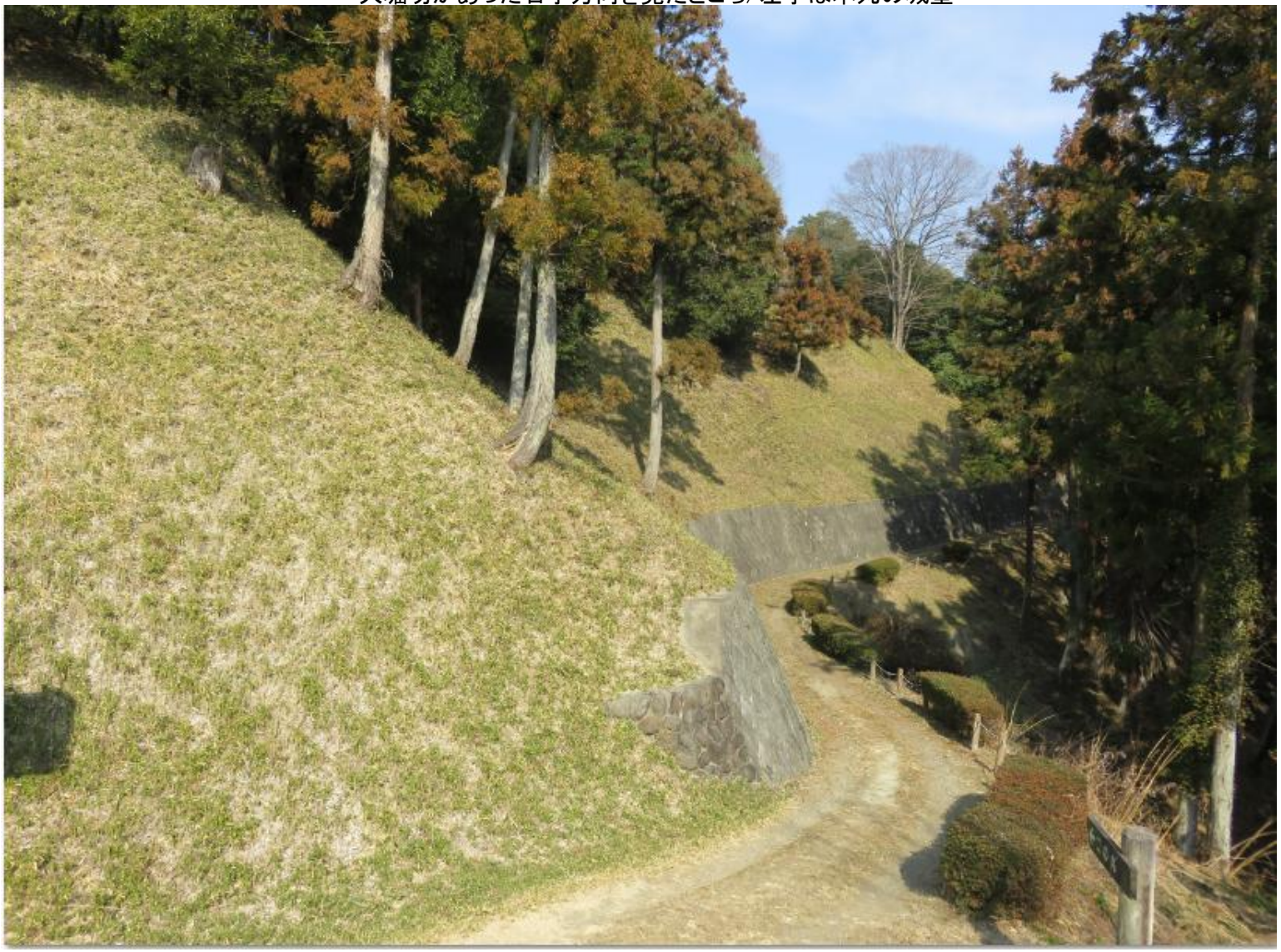
さて、南郭に登ってみよう

ここが南郭/やはり東屋が建っている/北側から南方向に見たところ

南側から北方向を見たところ/前方は本丸

南堀切を見下ろしたところ

大堀切があった右手方向を見たところ/左手は本丸の城塁



これは西側から南郭を見たところ

その右手を見たところ/この先には野草園があるようだ

左手を見ると先程の南堀切が見える/本丸の西を除く三方は尾根の付け根部分をそれぞれ堀切で断ち切っているのが確認出来た

そこで振り返って西方向を見たところ/右手は西第一郭、西第二郭の城塁

そのまま西方向に進むと最初の西第三郭の駐車場の戻った

丘陵を下りて、南西側から城跡を眺めたところ

その近くにはこんな石造物があった

アップで見たところ

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/003gunma/109gokan/gokan.html

http://yogokun.my.coocan.jp/gunma/annakasi.htm

http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Gokan/index.htm

http://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/gokan-jyo/

https://blogs.yahoo.co.jp/s04hi992ma/19956917.html?__ysp=5b6M6ZaR5Z%2BO6Leh77yI5a6J5Lit5biC77yJ

https://senjp.com/gokan/

http://castle.slowstandard.com/08kanto/15gunma/post_493.html

http://www9.wind.ne.jp/fujin/rekisi/siro/annaka/gokan/gokan.htm

http://nordeq.web.fc2.com/shiseki/gokan.html

http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/6218/gokan.html

http://www.geocities.jp/buntoyou/f11e-gs/gu-f2610gokan.html

https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/gunma/hou-xian-cheng

http://shikado.cocolog-nifty.com/zakki/2010/03/post-d3ba.html

https://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/62714145.html?__ysp=5b6M6ZaR5Z%2BO6Leh